

## メーデー宣言（案）

本日、私たちは 90 回目の記念すべき桑員地区メーデーを開催した。

メーデーは、1886 年に米国の労働者が 1 日 8 時間労働を求めてゼネストに立ち上がったことを起源としている。日本では、1920 年 5 月 2 日に第 1 回が開催された。その後、戦争などで禁止されたこともあったが、第二次世界大戦後、働く者の団結と連帯によって復活した。これまで、労働者の地位や労働条件の向上、民主主義の発展などをめざし継続され、本日 90 回目のメーデーを迎える。改めてメーデーの原点や意義を認識し、すべての仲間が団結・連帯することの重要性を共有しよう。

東日本大震災から 8 年、熊本県を中心とする九州地震から 3 年、昨年も各地で、地震や豪雨、台風などの大規模な災害が立て続けに発生した。依然として多くの人たちが不自由な生活を強いられている。一方、被災地では、支え合い、助け合うことで、前を向いて進もうとする姿がある。私たちは、引き続き災害を風化させることなく、防災・減災に取り組み、被災地の復興と地域の安全を守る運動を展開していく。

この 4 月から、改正労働基準法をはじめとする、働き方改革関連法が施行された。誰もが健やかに安心して働き続けられるよう、36 協定の遵守など真に働く者のための働き方改革を確実に遂行していかなければならない。また、これまでの「底上げ・底支え」「格差是正」の流れを継続していこう。そして社会的セーフティネットを拡大・強化し、子ども・子育て、医療、介護などへの将来不安の払拭につなげよう。労働者福祉事業団体や NGO・NPO などの諸団体と手を携え、「働くことを軸とする安心社会」の実現をめざして取り組んでいこう。

世界の労働者の労働条件と生活水準の改善を目的に創設された国際労働機関（ILO）が本年 100 周年を迎えた。「労働は商品ではない」と 1944 年の総会で採択されたフィラデルフィア宣言は、完全雇用や社会福祉の向上など、第二次世界大戦後の ILO の活動基本方針となったものである。新たな 100 年を契機とし、仕事の未来について世界的な規模での社会的対話の充実・促進をはかろう。また、世界の恒久平和に向けた運動の強化とともに、「SDGs（持続可能な開発目標）」の取り組みをすすめていこう。

世界では、貧困と格差が拡大し、民主主義を脅かす言動が頻発し、不安が高まっている。国内外の関係団体と連携し、すべての仲間、すべての人が平和・人権を守り、笑顔あふれる未来に向けて、全力を挙げて取り組むことをここに宣言する。

2019 年 4 月 22 日  
第 90 回桑員地区メーデー